

◎観光推進部長（東田宗一君） 小川議員の御質問にお答えをいたします。

一里野温泉掘削についての御質問でございますが、議員お話のとおり昭和46年に、手取川開発によりまして尾添川本流及び目付谷の流域変更、これに対します地元の同意の条件といたしまして、石川県と旧尾口村が引湯施設の整備工事を完成しました。そしてこれを一里野温泉に配湯いたしましたわけでございます。

温泉の配湯につきましては、昭和53年に一里野開発に伴いまして寄附行為を行いました一里野の指定私有地内の方に対しまして、協定書に基づいて給湯をしているところであります。現在、今お話ししましたとおり、旅館、民宿等19軒に配湯をいたしておるわけでございます。しかしながら、源泉が一里野から上流約10キロメートル、尾添川支流湯谷の大変急峻な場所に位置しているということから、雪崩あるいは漏水等の危険と隣り合わせで引湯をしておるわけでございます。毎年、相当額の修繕費を費やしながら今日まで来ておるのが実情でございます。

このため、温泉の安定供給と配湯コストを下げるべく、一里野地区におきまして、平成8年に温泉の開発調査を行いました。この調査によりますと、一里野温泉のやや上流部に開発可能なポイントがあるということがわかりましたが、湯の量あるいは湯の温度ともに現在の泉源に匹敵するほどのものではないという結論から、調査がこれで打ち切られた経緯がございます。

今般、新たに一里野地区で温泉を掘削してはどうかとの御提案でございますが、平成8年のこの調査報告に加えまして、周辺の地質、地層等に詳しい専門家によりますと、尾添発電所からハライ谷方向に温泉開発に有望な岩脈や断層帯がありそうだという見解でございました。また、一里野地区におきまして民宿等を営んでいる方々から、新たに温泉の給湯を受けたいという要望も受けていることも踏まえまして、加えて将来的な安定供給を図る上からも、再度範囲を拡大いたしまして新たな温泉開発の可能性について調査、検討をしてみたいと考えております。

以上でございます。